

Unified Functional Testing

ソフトウェアバージョン: 14.50

新機能

ヘルプセンターにアクセス

<http://admhelp.microfocus.com/uft/>

ご注意

免責事項

ここからアクセス可能なソフトウェアまたはドキュメント（以下「本資料」）の一部には、Hewlett-Packard Company（現在のHP Inc.）およびHewlett Packard Enterprise Companyのブランドが含まれる場合があります。2017年9月1日以降、本資料は所有と経営を別とする企業Micro Focusによって提供されています。HPおよびHewlett Packard Enterprise/HPEマークの使用は歴史的なものであり、HPおよびHewlett Packard Enterprise/HPEマークはそれぞれの所有者に帰属します。

保証

Micro Focusおよびその関連会社およびライセンサ（「Micro Focus」）の製品およびサービスの保証は、当該製品およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Micro Focusはいかなる責任も負いません。ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。明確な指示がある場合を除き、これらを所有、使用、または複製するには、有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1992 - 2018 Micro Focus or one of its affiliates.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

目次

Unified Functional Testing	1
UFT 14.50 の新機能	5
並列実行	5
モバイル・サポートの機能拡張	6
StormRunner Functional(SRF)のAOM サポート	7
ホバー・モードでのスニッパ(テクニカル・プレビュー版)	7
レポートの機能強化	7
BPT 実行時決定(分岐)	8
ライセンスの更新	9
TFS プラグインの機能強化	9
カスタム・ログ・メッセージの出力	9
新たにサポートされたテクノロジーのバージョン	9
ヘルプセンターの機能強化	10
UFT 14.03 の新機能	11
StormRunner Functional の機能強化	11
モバイルの機能強化	11
Web サポートの機能拡張	12
オブジェクト・スニッパでのオブジェクト・プロパティの比較	14
HTML レポートの機能強化	14
BPT の機能強化	14
ライセンスとインストールの更新情報	14
Java 9 のサポート(テクノロジー・プレビュー)	15
Delphi のサポートの更新情報	15
API テストの機能強化	15
PowerBuilder アプリケーションでのバージョンに依存しないテスト	15
新たにサポートされたテクノロジーのバージョン	16
UFT 14.02 の新機能	17
StormRunner Functional のリリースが開始	17
Desktop-as-a-Service(DaaS)のサポート	17
テストの組み合わせジェネレータ(TCG)の機能強化	18
Web サポートの機能拡張	18
モバイル・サポートの機能拡張	18
Network Virtualization レポート内のテスト統計	19
ALM サポートの機能拡張	19
API テストの機能強化	20
新たにサポートされたテクノロジーとフレームワーク	20

UFT 14.01 の新機能	22
SRF での UFT テストの実行	22
UFT 用の TFS プラグイン	22
JavaFX アプリケーションのサポート	23
オブジェクト・スパイを常に使用	23
API での SAML 2.0 Web サービス・セキュリティのサポート	23
モバイル・テストでの BPT の機能強化	23
モバイルに関する追加の機能強化	24
ロックされたリモート・セッションで UFT テストの実行を継続	24
Network Virtualization の機能強化	24
UI オートメーションの機能強化	25
新しいテクノロジーとフレームワークのサポート	25
UFT 14.00 の新機能	27
UFT ライセンスのエディションと構成	27
UFT の Microsoft TFS CI システムとの統合	28
記録と実行環境設定のデザイン変更	28
GUI テスト用のテストの組み合わせジェネレータ	28
UFT ヘルプのオンライン・アクセス	29
モバイルの機能強化	29
MQTT プロトコルに対する API テスト サポート	29
新しいスナイパー・モード	29
ローカライズおよび UFT ツール サポートの変更	29
テクノロジー固有の機能強化	30
ローカライズ	30
新しいテクノロジーとフレームワークのサポート	30
フィードバックの送信	32

UFT 14.50 の新機能

UFT 14.50 には、ソフトウェア・テストにおける劇的な変化に対応し、価値の創出までの時間を短縮するための、多くの新機能と機能強化が含まれています。

このトピックの内容：

- [並列実行 \(5ページ\)](#)
- [モバイル・サポートの機能拡張 \(6ページ\)](#)
- [StormRunner Functional\(SRF\)のAOM サポート \(7ページ\)](#)
- [ホバー・モードでのスパイ\(テクニカル・プレビュー版\) \(7ページ\)](#)
- [レポートの機能強化 \(7ページ\)](#)
- [ライセンスの更新 \(9ページ\)](#)
- [TFS プラグインの機能強化 \(9ページ\)](#)
- [カスタム・ログ・メッセージの出力 \(9ページ\)](#)
- [新たにサポートされたテクノロジーのバージョン \(9ページ\)](#)
- [ヘルプセンターの機能強化 \(10ページ\)](#)

並列実行

UFT は、高い技術を誇る機能をさらに強化して、Web テストを並列で実行する機能を備えています (テクニカル・プレビュー版で提供)。

コマンド・ライン実行

次のいずれかの方法を使用することで、テストの並列実行を設定できます。

カスタマイズ可能なテンプレート	.json ファイルでパラメータ値を設定すると、複数のテストを複数の環境で同時に実行できます。 ヒント：この方法を使用すると、それぞれのテストを Web 環境とモバイル環境の両方の組み合わせで実行することも可能です。
コマンド・ライン・パラメータ	コマンド・ライン・パラメータを使用すると、1 つのテストを複数の環境で同時に実行できます。

UFT Jenkins プラグイン

UFT Jenkins プラグイン：新しい環境選択ダイアログを使用すると、Web テストまたはモバイル・テストごとに複数の環境を定義できます。

実行結果

並列テストの実行結果には、すべてのテスト実行の結果が表示されます。たとえば、以下のように表示されます。

テストタイプ	Web	Web	Web	モバイル	モバイル
ルール	ブラウザ Chrome	ブラウザ IE	ブラウザ Firefox64	デバイス ID: L8FDU16630000248 OS タイプ: 該当なし OS バージョン: 該当なし 製造元: 該当なし モデル: 該当なし	デバイス ID: 該当なし OS タイプ: iOS OS バージョン: any 製造元: 該当なし モデル: Apple iPhone 7 Plus
GUITest_Web	<input type="radio"/> 保留中	<input type="radio"/> 保留中	<input type="radio"/> 保留中		
GUITest_Mobile				<input type="radio"/> 保留中	<input type="radio"/> 保留中

モバイル・テスト

前回のリリースでは、モバイル・テストの並列実行がテクニカル・プレビュー版として導入されましたが、モバイル・テストの並列実行は今回のバージョンで完全にサポートされることになりました。

モバイル・サポートの機能拡張

このバージョンのUFTには、Mobile Center を使用したモバイル・テストに対する次の機能強化が含まれています。

Mobile Center の複数プロジェクトおよびワークスペース機能のサポート

Mobile Center に接続するとき、UFT の [オプション] ダイアログで Mobile Center ワークスペースを選択します。複数の Mobile Center プロジェクトがある場合は、プロジェクトを選択すると、選択可能なワークスペースのリストが表示されます。

顔認証シミュレーション

UFT では、iOS デバイスのモバイル・スクリプトで、UFT 14.03 で導入された指紋認証シミュレーションだけでなく、顔認証シミュレーションもサポートされるようになりました。

SimulateFingerprint メソッドと **SetFingerprintSimulationMode** メソッドはそれぞれ、**SimulateAuthentication** と **SetAuthenticationSimulationMode** という名前に変更されました。

注意: UFT 14.50 には後方互換性があり、旧名称が含まれるスクリプトもサポートします。

バーコード認識シミュレーション

次の新しいメソッドをモバイル・テスト・スクリプトに追加すると、バーコード認識または QR コード認識をシミュレートできます。

- **SetBarcodeSimulationMode** : バーコード・シミュレーションを有効化または無効化します。
- **SimulateBarcodeByImage** : デバイスのカメラで撮影した画像でバーコードをシミュレートします。
- **SimulateBarcodeByData** : (iOS のみ)バーコードに格納された URL など、テキストと書式を使用してバーコードをシミュレートします。

Android の RecyclerView コントロール

Android の **RecyclerView** コントロールは、**MobileList** テスト・オブジェクトとして認識されるようになりました。

StormRunner Functional(SRF)の AOM サポート

UFT のオートメーション・オブジェクト・モデル(AOM)で、新しい **WebSRFSettings** オブジェクトがサポートされるようになりました。このオブジェクトを使用すると、UFT を開かなくても、SRF の記録と実行環境設定を定義することができます。

また、**WebLauncher** オブジェクトで、SRF をサポートするための拡張メソッドおよびプロパティがサポートされるようになりました。

ホバー・モードでのスパイ(テクニカル・プレビュー版)

オブジェクト・スパイで、オブジェクトをクリックしなくても、マウス・カーソルを置くだけで、そのオブジェクトを調査できるようになりました。

注意: これは、従来の手法では調査が難しかった複雑なコントロールをキャプチャするために、新たに開発された高度な手法です。たとえば、画面をクリックすると消えてしまうコントロールをキャプチャできます。

オブジェクト・スパイで、[ホバー・モード] を切り替えてからスパイを開始します。オブジェクト上にしばらくマウス・カーソルを置くと、オブジェクトの詳細がキャプチャされます。

レポートの機能強化

UFT の HTML レポートに、次の機能強化が追加されました。

右上隅の円グラフ : テストの実行中に合格したステップ、失敗したステップ、警告のあるステップに関する統計情報が表示されます。

例 :



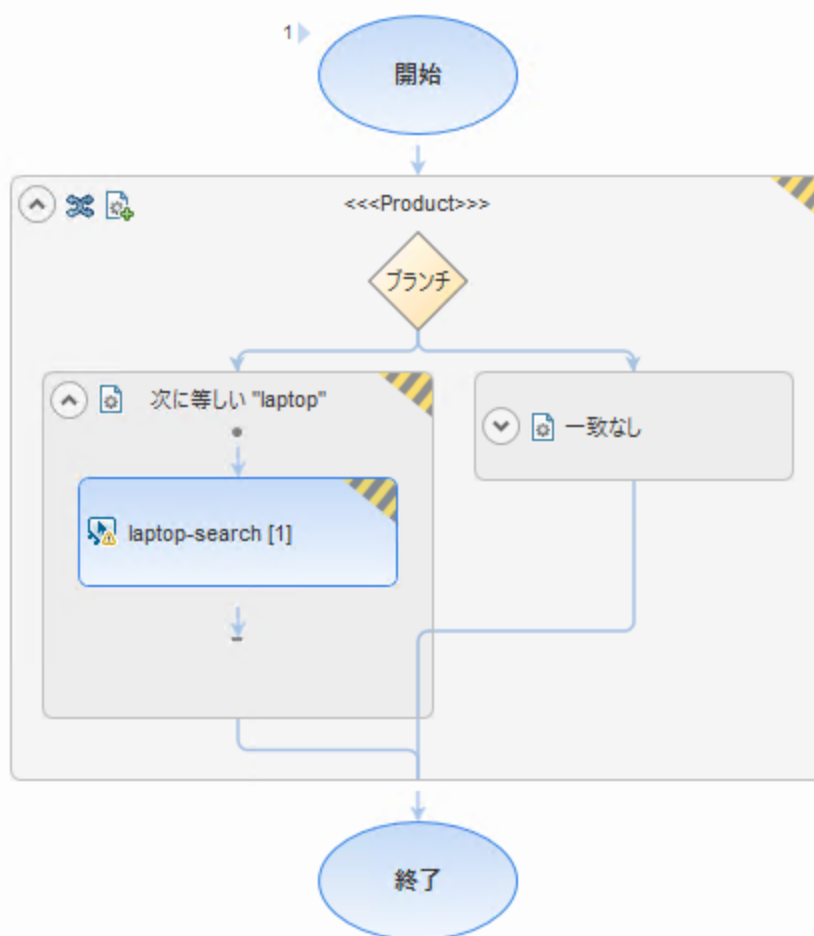
システム・モニタ・グラフ内の赤い垂直線：レポート内で現在選択されているステップを示します。

BPT 実行時決定(分岐)

UFT または ALM のいずれかから、ビジネス・プロセス・テストに構造を追加できるようになりました。分岐を使用することで、同じテストを使用して、アプリ内の多くの異なるユーザ・フローをカバーできます。

分岐により、実行中に方針を決定できる機能でテストを強化できます。これは、機能やインターフェースが直線的ではない複雑で動的なアプリケーションの場合に便利です。

例：



注意: 分岐は ALM バージョン 12.60 以降でサポートされます。

ライセンスの更新

AutoPass ライセンス・サーバを使用している場合は、UFT 14.50 にアップグレードすると、AutoPass もバージョン 10.7 にアップグレードする必要があります。

TFS プラグインの機能強化

テスト結果パス・パラメータを使用して、TFS テスト実行バッチ・ファイルをカスタマイズします。実行するテストのリストと、関連するすべてのパラメータを追加します。

カスタム・ログ・メッセージの出力

新しい `SystemUtil.PrintToDebugStream` メソッドを使用して、Windows デバッグ・ストリームにカスタム・ログ・メッセージを出力できるようになりました。

新たにサポートされたテクノロジーのバージョン

UFT で、次の新しいテクノロジー・バージョンがサポートされるようになりました。

- Java 9、Java 10
- Angular 5
- Oracle E-Biz 12.2.6
- SAPGUI 7.50 P6、SAP CRM(IE 64 ビット経由)、SAP Fiori 1.52、NWBC Desktop 6.5 PL7
- .NET ComponentOne FlexGrid 4.0
- IBM WebSphere HOD 12
- Rocket BlueZone 7.1
- QT 5.10
- API テストで TLS 1.1 および 1.2 の両方を標準サポート
- Citrix XenDesktop 7.15、7.17
- Citrix XenApp 7.15、7.17

新たにサポートされたブラウザのバージョン：

- Chrome 67、68
- Firefox 60、61
- Edge 17.17134
- Safari 11

ヘルプセンターの機能強化

ADM ヘルプセンターに Google のような直感的な検索機能が追加されました。

- [UFT ヘルプセンター](#)の検索機能を使用すると、PDF やリファレンス・ガイドなど、すべての提供文書から結果を見つけることができます。
- 右側のフィルタを切り替えると、同じ検索を別のヘルプセンターで実行できます。
- [ADM ヘルプセンターのホーム](#)から、すべてのADM ヘルプセンターに対して検索を実行できます。選択した製品で検索結果をフィルタできます。

UFT 14.03 の新機能

UFT 14.03 には多くの新機能と機能強化が含まれています。

このトピックの内容：

- [StormRunner Functional の機能強化 \(11ページ\)](#)
- [モバイルの機能強化 \(11ページ\)](#)
- [Web サポートの機能拡張 \(12ページ\)](#)
- [オブジェクト・スパイでのオブジェクト・プロパティの比較 \(14ページ\)](#)
- [HTML レポートの機能強化 \(14ページ\)](#)
- [BPT の機能強化 \(14ページ\)](#)
- [ライセンスとインストールの更新情報 \(14ページ\)](#)
- [Java 9 のサポート\(テクノロジー・プレビュー\) \(15ページ\)](#)
- [Delphi のサポートの更新情報 \(15ページ\)](#)
- [API テストの機能強化 \(15ページ\)](#)
- [PowerBuilder アプリケーションでのバージョンに依存しないテスト \(15ページ\)](#)
- [新たにサポートされたテクノロジーのバージョン \(16ページ\)](#)

StormRunner Functional の機能強化

既存のスクリプトを利用して、Web アプリやモバイル アプリをクラウドでテストできます。ラボの管理は弊社にお任せいただけます。

UFT 14.03 では、SRF を使用することで、クラウドベースのデバイスのリモート記録がサポートされます。次の手順を実行します。

1. UFT の [オプション] ダイアログ ([GUI テスト] > [StormRunner Functional])で、SRF に接続します。
2. [記録と実行環境設定] > [モバイル] 表示枠で、SRF を使用するよう設定します。
3. 記録を開始します。記録中に、アプリ内のオブジェクトのスパイを実行し、テストにチェックポイントを追加します。

モバイルの機能強化

UFT でのモバイル・テストで、以下の機能強化が行われました。

複数のモバイル・テストを並列実行(テクニカル・プレビュー)

新しいParallelRunner コマンド・ライン・ツールを使用することで、UFT で Mobile Center のデバイス・ラボを使用して、複数のモバイル・テストを並列実行できるようになりました。

以下の方法でテストを実行します。

設定可能な .json ファイルを使用して実行	.json ファイルでパラメータ値を設定すると、複数のテストを複数のデバイスで同時に実行できます。
コマンド・ラインで直接実行	コマンド・ライン・パラメータを使用すると、1つのテストを複数のデバイスで同時に実行できます。

Mobile Center の新しい複数プロジェクト機能のサポート

UFT 14.03 では、Mobile Center 2.60 で提供される複数プロジェクト機能がサポートされます。

Mobile Center に接続したら、[プロジェクトの取得] をクリックして、接続先のプロジェクトを選択します。

指紋認証のシミュレーション

UFT で、指紋認証のシミュレーション用に、新しい **SimulateFingerprint** メソッドと **SetFingerprintSimulationMode** メソッドがサポートされるようになりました。

モバイル・アドイン用のオートメーション・スクリプト

UFT のオートメーション・オブジェクト・モデル(AOM)で、モバイルの [記録と実行環境設定] ダイアログ・ボックスのオプションがサポートされるようになりました。

- **MobileApp** オブジェクト
- **MobileApps** オブジェクト
- **MobileDevice** オブジェクト
- **MobileLauncher** オブジェクト

モバイル・ブラウザによる Shadow DOM のサポート

UFT で、Polymer Shadow DOM を使用して開発された Web アプリのモバイル・テストの実行がサポートされるようになりました。

Web サポートの機能拡張

UFT でのモバイル・テストで、以下の機能強化が行われました。

Headless Chrome のサポート

UFT で、Chrome のバージョンが60以降の場合に、ローカルにインストールされたバージョンの Headless Chrome のテストがサポートされるようになりました。

Headless Chrome でテストを実行するには、[記録と実行環境設定] ダイアログで [**Google Headless Chrome**] を選択します。

Chrome およびFirefox からの静止画像のキャプチャ

UFT で、Chrome およびFirefox での記録時に、静止画像をキャプチャできるようになりました。これらの画像を ActiveScreen で利用することで、アプリケーションの現在の外観と、テストが最初に記録されたときの外観を比較することができます。

Chrome およびFirefox で ActiveScreen キャプチャを有効にするには、以下の手順を実行します。

1. UFT の [オプション] ダイアログ・ボックスで、[GUI テスト] > [ActiveScreen] > [カスタムレベル] を選択します。
2. [Web] の下で、[Chrome/FF で ActiveScreen のキャプチャを無効にする] オプションをクリアします。

注意: ActiveScreen の右クリック・オプション(ステップの追加やチェックポイントの追加など)を使用するには、引き続き Internet Explorer でテストを記録してください。

NW.js フレームワーク上でのテスト

UFT で、NW.js フレームワークに組み込まれた Web アプリのテスト機能がサポートされるようになりました。

[オプション] ダイアログ・ボックスの [GUI テスト] > [Web] > [リモート接続] 表示枠で、UFT からアプリへのアクセスを設定します。

1. NW.js ベースの Web アプリの URL を追加します。
2. [フレームワーク] カラムで、[NW.JS] を選択します。

組み込みフレームワーク内のアプリに対するスパイの実行

UFT で、CEF、Electron、NW.js などの組み込みフレーム内のオブジェクトに対するスパイの実行がサポートされるようになりました。

React コンポーネントのサポート


UFT で、React フレームワークを使用して構築された Web アプリのテスト機能がサポートされるようになりました。

UIGrid オブジェクトのサポート

UFT の新しい **WebUIGrid** テスト・オブジェクトを使用することで、Angular ベースの UIGrid オブジェクトを識別できます。

オブジェクト・スパイでのオブジェクト・プロパティの比較

UFT のオブジェクト・スパイを使用して、同じタイプの2つのオブジェクトを調査して、両者のプロパティを比較できるようになりました。

アプリケーションを開いて、最初のオブジェクトのスパイを実行します。次に新しい **[Compare]**  ボタンをクリックして、比較対象となる2番目のオブジェクトのスパイを実行します。

オブジェクト・ツリーとプロパティの詳細をスクロールして、2つのオブジェクトを比較します。

HTML レポートの機能強化

UFT で、ローカル・システム・モニタ・データとモバイル・デバイスの重要情報を収集して、HTML 実行結果に表示できるようになりました。

- グラフ内の項目にマウス・カーソルを置いて詳細を表示
- 下部の凡例項目を選択して表示データを制御

BPT の機能強化

BPT のパフォーマンスおよびスケーラビリティの向上

ALM に保存された BPT レポートのパフォーマンス設定を、ALM 内のビジネス・プロセス・テストのカスタマイズ・ページから直接定義できるようになりました。

ALM の [プロジェクトのカスタマイズ] 領域で、[ビジネス プロセス テスト] > [テスト レポート] のカスタマイズ領域にアクセスし、以下の新しいオプションを指定します。

BPT テスト結果を1つの.zip ファイルとして ALM にアップロードする	利用可能な ALM バージョン： <ul style="list-style-type: none">• 12.21 パッチ 6 以降の 12.21 パッチ• 12.55 パッチ 1 以降の 12.5x パッチ
BPT レポート・ビューアからのコンポーネント・パラメータ値を除外する	
BPT レポート ビューアに含める Reporter.ReportEvent ステップのレベルを定義	利用可能な ALM バージョン：12.21 パッチ 6 以降の 12.21 パッチ

ライセンスとインストールの更新情報

UFT 14.03 では、ライセンスとインストールに関して以下のような更新が行われています。

- Windows サーバでのロムータおよびリモート・コムータ・ライセンス・タイプのサポート。
- **AutoPass License Server** の最新バージョンのサポート。アップグレードするには、[Micro Focus ITOM マーケット プレイス](#) (ログインが必要) から最新バージョンをダウンロードします。

- ローカライズが提供される言語は、日本語、中国語、フランス語、ロシア語、ドイツ語です。ローカライズ・バージョンをインストールするには、UFT のインストール時に使用言語を選択します。

Java 9 のサポート(テクノロジー・プレビュー)

UFT で、Java 9 のテクノロジー・プレビュー版がサポートされるようになりました。

Delphi のサポートの更新情報

UFT 14.03 では、Delphi アプリケーションのテストに関して以下のような機能強化が行われています。

初期状態で Delphi をテスト

UFT が標準設定で Delphi をサポートするようになったため、UFT エージェントで Delphi アプリケーションをプリコンパイルしなくても、初期状態でテストを実行できるようになりました。

- このサポートには引き続き後方互換性があります。すでに UFT エージェントでコンパイルしたアプリケーションがある場合は、引き続きそれらの同じアプリケーションをテストできます。
- Delphi Add-in Extensibility** を使用している場合、UFT の以前のバージョンと同じように、引き続き UFT でアプリケーションをプリコンパイルする必要があります。

UI オートメーションを使用した Delphi のテスト

UFT の UI Automation Add-in が、**delphi_name** と **delphi_path** の 2 つのプロパティを使用することで、Delphi アプリケーションに拡張されました。

UI Automation Add-in を使用して Delphi のコントロールを認識するには、以下の手順を実行します。

- UFT の起動時に、Delphi Add-in と UI Automation Add-in の両方を有効にします。
- UI オートメーション・テスト・オブジェクトに、新しいプロパティを手動で追加します。

API テストの機能強化

UFT の API テストで、以下の機能がサポートされるようになりました。

- インポート済みの Swagger サービスの更新
- セキュリティ保護された JMS(Tibco EMS)

PowerBuilder アプリケーションでのバージョンに依存しないテスト

UFT で、サポート対象バージョンの PowerBuilder オブジェクトを認識する際に、お使いの PowerBuilder バージョンに依存することがなくなりました。

PowerBuilder の将来のバージョンでは、UFT とさらにスムーズに統合できるようになる予定です。

新たにサポートされたテクノロジーのバージョン

UFT で、次の新しいテクノロジー・バージョンがサポートされるようになりました。

- Flex およびQT の最新バージョン
- Web ブラウザの最新バージョン
- SAP GUI 750 P4 およびSAP GUI 740 P17
- SAP Business Client(NWBC)6.5
- Java 9(テクノロジー・プレビュー)

UFT 14.02 の新機能

UFT 14.02 には多くの新機能と機能強化が含まれています。

このトピックの内容：

- [StormRunner Functional のリリースが開始 \(17ページ\)](#)
- [Desktop-as-a-Service\(DaaS\)のサポート \(17ページ\)](#)
- [テストの組み合わせジェネレータ\(TCG\)の機能強化 \(18ページ\)](#)
- [Web サポートの機能拡張 \(18ページ\)](#)
- [モバイル・サポートの機能拡張 \(18ページ\)](#)
- [Network Virtualization レポート内のテスト統計 \(19ページ\)](#)
- [ALM サポートの機能拡張 \(19ページ\)](#)
- [API テストの機能強化 \(20ページ\)](#)
- [新たにサポートされたテクノロジーとフレームワーク \(20ページ\)](#)

StormRunner Functional のリリースが開始

StormRunner Functional(SRF)は、Web アプリケーションやモバイル アプリケーションをインテリジェントかつ継続的にテストし、投資利益率を最適化することが可能なクラウド・ソリューションです。

ベータ段階が終了したSRFを使用することで、UFT ユーザは以下の操作を実行できます。

- ローカル実行と同じ感覚で、クラウドでUFT Web およびモバイル・テストのリモート実行が可能
- UFT Web およびモバイル・テストをクラウドにアップロードすることで、それらのテストをSRF テスト用のモジュール型アセットとして使用可能
- テスト・ラボを作成しなくても、ほぼすべてのブラウザとデバイスに対してテストが可能
- UFT とSRF の両方で実行結果を表示可能

クラウドの世界でSRF ブラウザとモバイル・ラボを活用し、既存のテストのカバレッジを拡大してください。

[こちらから無料試用版をご利用いただけます。](#)

注意: SRF は、UFT だけでなく、LeanFT や Selenium にも統合可能で、業界標準の高性能テスト・ツールの包括的なテスト・プラットフォームを実現できます。

Desktop-as-a-Service(DaaS)のサポート

UFT で Amazon WorkSpaces がサポートされるようになりました。これは、AWS を利用した、完全に管理されたセキュアな Desktop-as-a-Service(DaaS)ソリューションです。

わずか数クリックの簡単な操作で、チームやユーザがクラウドベースのMicrosoft Windows 仮想デスクトップをプロビジョニングできます。これにより、UFT および必要なリソースに、サポート対象のあらゆるデバイスから、いつでもどこでもアクセスできるようになります。

利用を開始するには、Amazon Web Services(AWS)コンソールから、Workspace インスタンスを設定して起動します。

WorkSpace の準備が完了したら、実際のデスクトップの場合と同じように、WorkSpace 上でUFT をダウンロードしてインストールします。

テストの組み合わせジェネレータ(TCG)の機能強化

UFT のテストの組み合わせジェネレータ(TCG)ツールで、テスト中のアプリケーションからデータを直接プルすることで、リスト・オブジェクトから値を生成する新しいメソッドがサポートされるようになりました。

1. テストの組み合わせジェネレータで、生成タイプを [UI からプル] に定義します。
2. データをプルするオブジェクトを選択します。
3. 含める特定の値を定義するか、またはUFT でランダムな値が選択されるようにします。

Web サポートの機能拡張

UFT で、Web テストの機能向上のため、以下の機能が追加されました。

ag-Grid サポート	UFT に、Web アプリのag-Grid グリッドをサポートする新しい WebAgGrid テスト・オブジェクトが追加されました。
Firefox バージョン 57	Firefox バージョン 57 以降をサポートするために、Mozilla Firefox 用の新しい Functional Testing Agent がリリースされました。
Shadow DOM のサポート	Chrome を使用して、Polymer のShadow DOM で開発したアプリケーション上で、Web テストを記録したり実行したりできるようになりました。 オブジェクトの認識やテスト・オブジェクトおよびメソッドについては、UFT の既存の Web サポートを使用してください。
インストール	Web 2.0 アドインのサイレント・インストールが可能になりました。

モバイル・サポートの機能拡張

モバイル・テスト・オブジェクト用のVRI

ネイティブ・アプリ内のモバイル・テスト・オブジェクトを識別するために、ビジュアル関係識別子(VRI)がサポートされるようになりました。

VRI では、UFT がオブジェクトを識別する際に、オブジェクト自身の識別プロパティを使用するのではなく、隣り合ったオブジェクトとの相対的な位置を使用して行えるようにします。

VRI が特に役に立つのは、アプリケーション内に区別が付かない複数のテスト・オブジェクトがあり、それぞれの周囲にあるオブジェクトが決まっている場合などです。


実行セッション中にモバイル・アプリをプログラムで制御

モバイル・テストで次の新しいメソッドを使用すると、実行セッション中にアプリを制御できます。

- **Kill**: アプリとそのすべてのプロセスを停止します。
- **Uninstall**: アプリをアンインストールします。

特定のモバイル・アプリのアップロード番号の使用

[記録と実行環境設定] ダイアログの [モバイル] タブで、アプリにマウス・カーソルを合わせると、アプリのアップロード番号、バージョン番号、ビルド・バージョンなどの追加の詳細が表示されます。

アプリが複数回アップロードされている場合、[記録と実行環境設定] から **MC ウィザード**  を開き、使用するアップロード番号(特定のアップロード番号または最新の番号のいずれか)を定義します。

Network Virtualization レポート内のテスト統計

Network Virtualization(NV)ユーザは、NV サーバから実行中のUFT テストの統計情報を取得できるようになりました。

この機能を有効にするには、次の手順を実行します。

1. Network Virtualization への接続を設定します。
2. スクリプト内でエミュレーションを開始し、Network Virtualization で新たにサポートされた開始および終了トランザクションを使用します。

NV レポートで、UFT テスト・データを確認します。

ALM サポートの機能拡張

ALM 14.00 への接続

ALM 14.00 SaaS を使用すると、ALM Webgate Customization Tool で資格情報を設定しなくても、UFT から ALM サーバに SSO でシームレスに接続することができます。

ALM 14.00 パッチ 1 にアップグレードする場合、これまでに ALM Webgate Customization Tool を使用して定義したユーザ資格情報または証明書があれば削除します。

UFT 内のBPT テストを ALM から直接開く

UFT プラグインをお持ちのALM ユーザは、UFT 内の特定のBPT テストをALM から直接開けるようになりました。

ALM の操作時のパフォーマンスの機能強化

新しいALM サイト・パラメータを使用することで、ALM との統合をこれまでより迅速に設定できるようになりました。これらのパラメータを設定して、UFT またはBPT の各テスト結果でALM が処理するファイル数を減らすことで、スムーズな処理が可能になります。

ALM で次のいずれかを行うように設定します。

- UFTテスト結果を1つのzip ファイルとしてアップロードする
- ALMにアップロードされるBPT テスト結果から特定のデータを除外する

API テストの機能強化

UFT のAPI テスト・サポートに、次の機能が追加されました。

APIテストの.zip へのエクスポート	API テストを.zip ファイルにエクスポートすることで、テストのポータブル・コピーを作成できます。
API要求のエンベロープ全体へのアクセス	新しいOnConstructRawRequest イベントを使用することで、API 要求のエンベロープ全体にアクセスできます。これにより、必要に応じてプロパティを操作できます。
APIステップの無効化	API テストのデバッグ時に、特定のステップを無効にできるようになりました。ステップを右クリックし、[ステップの無効化] を選択するだけで無効にできます。 ステップをテスト実行にもう一度含める準備ができたなら、[ステップの有効化] を選択します。

新たにサポートされたテクノロジーとフレームワーク

UFT では、次の新しいテクノロジーとフレームワークがサポートされるようになりました。

- DevExpress WinForms 17.1
- Electron(テクノロジー・プレビュー、サンドボックス・モードのみ)
- GWT 2.8
- Microsoft Dynamics 2016
- PeopleSoft 9.2、PeopleTools 8.56
- SAP CRM 7.03
- SAP Enterprise Portal on SAP NetWeaver 7.5

新機能

UFT 14.02 の新機能

- UIA アドインによる Universal Windows Platform(UWP) サポート
- Windows 10 バージョン 1709
- XenDesktop 7.8
- Bootstrap のボタン (Bootstrap を使用した Angular 自己定義ボタンを含む)

UFT 14.01 の新機能

UFT 14.01 には多くの新機能と機能強化が含まれています。

このトピックの内容：

- [SRF でのUFT テストの実行 \(22ページ\)](#)
- [JavaFX アプリケーションのサポート \(23ページ\)](#)
- [オブジェクト・スパイを常に使用 \(23ページ\)](#)
- [API でのSAML 2.0 Web サービス・セキュリティのサポート \(23ページ\)](#)
- [モバイル・テストでのBPT の機能強化 \(23ページ\)](#)
- [モバイルに関する追加の機能強化 \(24ページ\)](#)
- [ロックされたリモート・セッションでUFT テストの実行を継続 \(24ページ\)](#)
- [Network Virtualization の機能強化 \(24ページ\)](#)
- [UI オートメーションの機能強化 \(25ページ\)](#)
- [新しいテクノロジーとフレームワークのサポート \(25ページ\)](#)

SRF でのUFT テストの実行

UFT でStormRunner Functional(SRF)がサポートされるようになりました。

SRF は、Web アプリケーションやモバイル・アプリケーションをインテリジェントかつ継続的にテストし、投資利益率を最適化することが可能なクラウド・ソリューションです。本製品を使用することで、UFT ユーザーは以下の機能を実行できます。

- ローカル実行と同じ感覚で、クラウドでUFT テストのリモート実行が可能
- テスト・ラボを作成しなくても、ほぼすべてのブラウザに対してテストが可能
- UFT とSRF の両方で実行結果を表示可能

クラウドの世界でSRF ブラウザとモバイル・ラボを活用し、既存のテストのカバレッジを拡大してください。[こちらから無料試用版をご利用いただけます。](#)

注意: SRF は、UFT だけでなく、LeanFT やSelenium にも統合可能で、業界標準の高性能テスト・ツールの包括的なテスト・プラットフォームを実現できます。

UFT 用のTFS プラグイン

新しいプラグインを使用することで、UFT をMicrosoft TFS CI システムに統合できるようになりました。

詳細については、[ADM TFS Extension Wiki](#) を参照してください。

JavaFX アプリケーションのサポート

UFT で、Java アドインをネイティブに使用することで、JavaFX で作成されたアプリケーションのテストがサポートされるようになりました。

14.01 より前のバージョンでは、JavaFX は Microsoft UI Automation によってサポートされ、単なる JavaFX ウィジェットが対象でした。

今バージョンからは、JavaFX と UFT の現在の Java アドインを組み合わせることで、アプリケーション内の JavaFX オブジェクトと既存の Java テスト・オブジェクトのマッピングが可能になりました。

オブジェクト・スパイを常に使用

このバージョンの UFT では、オブジェクト・スパイに関して次の機能強化が行われています。

- UFT のセッション全体を通じてオブジェクト・スパイを常時使用できます。テストを編集するために、ワークフローを中断して [オブジェクト スパイ] ダイアログを閉じる必要はありません。
- オブジェクト・スパイから、利用可能な任意のオブジェクト・リポジトリにテスト・オブジェクトを保存できます。オブジェクトを追加するリポジトリは、ダイアログ・ボックスの上部にあるドロップダウン・リストから選択します。

API での SAML 2.0 Web サービス・セキュリティのサポート

UFT で、Web サービスのテストにおいて SAML 2.0 Web サービス・セキュリティ・プロトコルがサポートされるようになりました。

[**WS-Security**] タブで、メッセージ・レベルのセキュリティを設定できます。

モバイル・テストでの BPT の機能強化

UFT 14.01、Mobile Center 2.51、BPT の統合により、以下の機能強化がサポートされるようになりました。

モバイル・デバイスのテスト用の新しい組み込み関数ライブラリ	Mobile.txt 関数ライブラリには、デバイスの詳細または Mobile Center のデバイス ID のいずれかを使用して、BPT テスト用のアクティブなモバイル・デバイスを設定する関数が用意されています。
BPT テストと GUI テストの両方に対してデバイスをプログラムで定義可能	BPT テストだけでなく GUI テストでも、使用するデバイスを MobileUtil テスト・オブジェクトで定義できるようになりました。

キーワード・コンポーネントでのモバイル・オブジェクトのサポート	ALM の内部から、キーワード・コンポーネント内のモバイル・オブジェクトを表示して編集できるようになりました。
---------------------------------	---

モバイルに関する追加の機能強化

BPT に関連する更新情報のほかに、UFT と最新の Mobile Center 2.51 リリースを統合することで、以下の機能がサポートされるようになりました。

Jenkins	Jenkins プラグインを使用することで、テストをネイティブ・モバイル・ブラウザ上で実行できるようになりました。
SSL 接続	標準設定で自己署名 SSL 証明書がインストールされるようになりました。 SSL を使用するには、UFT の [オプション] ダイアログ([ツール] > [オプション] > [GUI テスト] > [モバイル])でオプションを選択するだけです。
モバイル Web テスト	LaunchBrowser メソッドとLaunchMobileBrowserWithID メソッドを使用することで、GUI テストだけでなくBPT テストでも、テストの実行中に新しいブラウザ・セッションを自動的に起動できます。

ロックされたリモート・セッションで UFT テストの実行を継続

以前の UFT でテストの継続がサポートされたのは、リモート・セッションの接続を解除した場合だけでした。これにより、ローカル・コンピュータを別の作業に使用したり、ローカル・セッションを完全に閉じたりすることができました。

同じオプションを使用して、リモート画面がロックされた場合にも、リモート・セッションでテストの実行を継続できるようになりました。

[ツール] > [オプション] ダイアログ・ボックス > [実行セッション] 表示枠で、[ロック/切断されたリモート コンピュータに対するテストの継続を可能にします] を選択し、リモート・アクセス資格情報を入力します。

Network Virtualization の機能強化

更新された次の機能を使用して、UFT を Network Virtualization に統合することができます。

Network Virtualization のエミュレーション設定をリアルタイムで更新	NV ユーティリティ・オブジェクトの新しい ModifyEmulationDetails メソッドと ModifyEmulationProfile メソッドを使用して、テストの実行中にエミュレーションの詳細をリアルタイムで更新できます。 これにより、実際の運用環境と同じような動作を再現できるため、ネットワークをさらに正確にエミュレートできます。
プロキシ経由の接続	Network Virtualization サーバへの接続に関して、プロキシ経由の接続を定義できるようになりました。

UI オートメーションの機能強化

UI オートメーション・テストで、以下の機能強化を使用できるようになりました。

UIAutomation オブジェクトを関連する UIAutomation テスト・オブジェクトに変換	UIAutomation ユーティリティ・オブジェクトを使用して、UI オートメーション・テスト・オブジェクトを作成できるようになりました。 作成されるテスト・オブジェクト・タイプは、UI オートメーションによって検出されるコントロールのタイプに基づきます。 以下の新しいメソッドを使用します。 <ul style="list-style-type: none">● CreateTOFromUIA● CreateTOColFromUIA たとえば、コントロールのタイプがボタンの場合、 CreateTOFromUIA メソッドによって UIAButton テスト・オブジェクトが作成されます。
動的な記述的プログラミング	動的な記述的プログラミングは、 Filter 、 Find 、 Has の各ネイティブ UI オートメーション・メソッドでサポートされるようになりました。

新しいテクノロジーとフレームワークのサポート

UFT では、次の新しいテクノロジーとフレームワークがサポートされるようになりました。

- Firefox および Chrome の最新バージョン。
- .NET および .NET 4.7 Framework 上の WPF アプリケーション
- Angular 2.0 および 4.0
- Attachmate Extra! 9.4
- Delphi 10.2
- Dojo 1.12

新機能

UFT 14.01 の新機能

- jQuery 1.12
- Rumba 9.5
- PowerBuilder 2017
- SAML 2.0
- SAP Fiori 1.44
- SAP EP 7.4

UFT 14.00 の新機能

このトピックの内容：

- [UFT ライセンスのエディションと構成 \(27ページ\)](#)
- [UFT のMicrosoft TFS CI システムとの統合 \(28ページ\)](#)
- [記録と実行環境設定のデザイン変更 \(28ページ\)](#)
- [GUI テスト用のテストの組み合わせジェネレータ \(28ページ\)](#)
- [UFT ヘルプのオンライン・アクセス \(29ページ\)](#)
- [モバイルの機能強化 \(29ページ\)](#)
- [MQTT プロトコルに対するAPI テスト サポート \(29ページ\)](#)
- [新しいスナイパー・モード \(29ページ\)](#)
- [ローカライズおよびUFT ツール・サポートの変更 \(29ページ\)](#)
- [テクノロジー固有の機能強化 \(30ページ\)](#)
- [ローカライズ \(30ページ\)](#)
- [新しいテクノロジーとフレームワークのサポート \(30ページ\)](#)

UFT ライセンスのエディションと構成

バージョン 14.00 では、UFT ブランドに **UFT Ultimate**、**UFT Enterprise**、**UFT Pro(LeanFT)** の各エディションが追加されました。利用できる UFT 機能はエディションによって異なります。

対応している製品：	ライセンス名		
	UFT Ultimate	UFT Enterprise	UFT Pro(LeanFT)
UFT	✓	✓	x
LeanFT	✓	✓	✓
Sprinter	✓	✓	x
BPT	✓	x	x
Mobile Center (機能テストの場合のみ)	✓	x	x

詳細については、当社の製品ページ(<https://software.microfocus.com/en-us/software/uft>)を参照してください。

この変更が既存のライセンスで利用できる機能に影響することはありません。

- 以前の UFT ライセンスは、UFT Enterprise に名称が変更されました。
- 以前の LeanFT ライセンスは、UFT Pro(LeanFT) に名称が変更されました。

これまでと同様に、**UFT ランタイム・エンジン・ライセンス**を使用すれば、UFT テストまたはLeanFT テストの実行のみが行えます。UFT ランタイム・エンジン・ライセンスでは、テストを作成または編集したり、UFT IDE やLeanFT IDE のプラグインにアクセスしたりすることはできません。

ライセンスの移行

コンカレント・ライセンスをお持ちの場合は、ライセンス・サーバのIP アドレスに基づいたライセンスの代わりに、**デバイス ID ベースのライセンス**への移行を選択することもできます。

これを選択する場合は、すべてのコンカレント・ライセンスを移行する必要があります。

注意: 新しいライセンス・エディションへの移行は必須ではありません。また、既存のライセンスには後方互換性があります。

ライセンス・サーバの設定

UFT インストールで提供する設定ファイルを使用して、コンカレント・ライセンスの一般的な動作を編集できるようになりました。

Autopass License Server バージョン 9 以降を使用することをお勧めします。

詳細については、[Autopass License Server](#) と一緒にダウンロードされる『Autopass License Server User Guide』を参照してください。

UFT の Microsoft TFS CI システムとの統合

UFT TFS 拡張を使用し、Microsoft Team Foundation Server(TFS)CI プロセスの一部として UFT テストを実行します。

詳細については、[UFT TFS Extension wiki](#) を参照してください。

記録と実行環境設定のデザイン変更

「記録と実行環境設定」ダイアログ・ボックスのデザインを変更し、アプリケーションの記録と実行環境設定を行う際の操作性の拡張と改善を行いました。

注意: これらのUI 変更には完全な後方互換性があるため、テストを実行する前に実行設定や記録設定を更新する必要はありません。

GUI テスト用のテストの組み合わせジェネレータ

GUI テストの作業を行う際に、テストの組み合わせジェネレータが利用できるようになりました。

このツールを使用すると、グローバル・データ・テーブルのパラメータ値のセットを自動生成できます。また、以下のようなことも可能です。

- 複数のパラメータ値で構成された合成パラメータの生成
- 生成した設定からのパラメータの除外

UFT ヘルプのオンライン・アクセス

標準設定で、UFT ヘルプセンターにはオンラインでアクセスするようになりました。

- 任意のブラウザから、オートメーションおよびExtensibility のヘルプを含むドキュメントにオンラインでアクセスできます。
- サイトの検索エンジン(Google を利用)を使用して、すべてのUFT ヘルプ・ファイルを検索できます。検索ページのタブをクリックすると、検索結果を絞り込むことができます。
- フッタのリンクをクリックすると、docteam@microfocus.com にフィードバックを送信できます。

UFT ヘルプセンターはUFT インストールには付属しなくなりました。

ヘルプセンターをダウンロードして、UFT ヘルプの標準設定を切り替えるには、[オプション] ダイアログボックスの [ヘルプ] 表示枠([ツール] > [オプション] > [一般] タブ > [ヘルプ] ノード)を参照してください。

注: サイレント・インストールを行うために **Help_Documents** MSI パラメータを使用しているスクリプトがある場合は、スクリプトを更新してください。

モバイルの機能強化

UFT でモバイル・デバイスでのセンサ・シミュレーション操作がサポートされるようになりました。

詳細については、「[Mobile Center 2.2 の新機能](#)」および [Mobile Center ヘルプ](#) を参照してください。

MQTT プロトコルに対する API テスト サポート

サービス・レベルで通信に MQTT プロトコルが使用されている場合に、アプリケーションの API テストを使用できるようになりました。

新しいスナイパー・モード

新しいスナイパー・モードを使用すると、アプリケーションの所定の領域内のすべてのオブジェクトをすばやく学習できます。

詳細については、[オブジェクトのキャプチャに関する項](#)を参照してください。

ローカライズおよび UFT ツール・サポート の変更

- UFT インストールは現在、英語、中国語、日本語、ロシア語、フランス語、ドイツ語で提供されています。
- インストール後は JRE UFT ツールが利用できなくなりました。
- Extensibility Accelerator は UFT セットアップから削除されました。ダウンロードとインストールは [AppDelivery Marketplace](#) から行います。

テクノロジー固有の機能強化

以下のように、各種テクノロジー上に構築されたさまざまなアプリケーションをテストする機能を強化しました。

Flex	<ul style="list-style-type: none">すべてのFlex オブジェクトで、テスト内のダブルクリックにDbClick メソッドを使用FlexTable オブジェクト用のActivateCell メソッド個々のテーブル・セル外でのFlexTable オブジェクトの使用 詳細については、『 UFT Object Model Reference for GUI Testing 』の「Flex」の項を参照してください。
UI オートメーション	ネイティブ・オブジェクト・メソッドのサポートの改善(これらのオブジェクトおよびUIAutomation ユーティリティ・オブジェクトでの記述的プログラミングの使用を含む)。 詳細については、 UI オートメーションのネイティブ・メソッドに関するトピック および『 UFT Object Model Reference for GUI Testing 』の「 UIAutomation ユーティリティ・オブジェクト 」を参照してください。
Oracle	OracleForms 12c サポート用の新しいOracle オブジェクトとして、 OracleCalendar および OraclePickList が導入されました。
Java	<ul style="list-style-type: none">Java 8 がUFT 14.00 にバンドルされ、UFT とともにインストールされるようになりました。Java 8 でアプリケーションを使用する場合に、-noverify 属性を追加する必要がなくなりました。

ローカライズ

UFT 14.00 は英語の他に以下の言語で利用できます。

日本語、中国語、ロシア語、フランス語、ドイツ語

新しいテクノロジーとフレームワークのサポート

UFT では、次の新しいテクノロジーとフレームワークがサポートされるようになりました。

- Firefox およびChrome の最新バージョン。
- Windows Server 2016
- Autopass License Server 9.3
- EXT-JS 6.0
- SiebelOpenUI 16
- Safari 10.12(「Sierra」)
- SAPUI5 1.38
- Testing Extensibility SDK 用のVisual Studio 2015
- Solution Manager 7.2

新機能

UFT 14.00 の新機能

- Delphi Berlin 10.1
- SAP Hybris

詳細については、[Unified Functional Testing 使用可能製品マトリクス](#)を参照してください。

フィードバックの送信



新機能を使用してお気づきになった点をお知らせください。
電子メールの宛先: docteam@microfocus.com

